

慈雲

25号

2012/12

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



即執利劍 欲害其母

【觀經】の言葉

即執利劍 欲害其母

すなわち利劍を執りて、その母を害せんとす。

父を殺そうとしている阿闍世は自分の母がその邪魔をしていることを知って怒り、母韋提希を賊だと罵り、(前回)さらに劍をとって我が母を殺そうとするところです。

中国の善導大師はここを註釈されていますが、その前半では、阿闍世は身・口・意の三つで逆を犯した、といっています。口は親を罵ること、身は殺そうとしたこと、そして、そのもとなっていて、その心である、と評論をしています。

しかし、それに続いて大師は「何ぞ其れ痛ましいかな」と韋提希が遭った出来事に対して自分のことのように響感し悲しみ嘆いているのです。これが、經典の読み方のコツであります。

帰敬式によせて】

十一月十一日に報恩講に引き続き、帰敬式が執り行われ、六名の方が受式されました。

御住職が考えられました各人の法名とその由来などをご紹介したいと思ひます。

紙面の関係で、四名の方々のみの掲載となります。

【正信偈】に学ぶ】は休載致します。

ほうえ

法名 釋 尼法慧

齊藤 和恵さま

『佛説無量寿経・下巻』 『眞宗聖典』十

ページ）の中にある言葉

しみょうほうえ

次名法慧。」

次をば法慧と名づく。からとりました。

阿弥陀仏がまだ修行中だったとき、その名を法蔵菩薩といいました。その法蔵菩薩は世自在王仏という仏さまに師事して本願を起し修行されたのです。

お釈迦さまの説法によりますと、その世自在王仏の背景には長い長い歴史があったと説かれます。

そのところを『佛説無量寿経』には今を去ること久遠の昔に錠光という如来が世に出られ、多くの衆生を救って道を得て涅槃に入られた。」その文に続いて光遠、月光、梅檀香、善山王と続き、その四十九番目に「法慧」という仏さまが登場します。合わせて五十三人の仏さまが続きます。

これは、はかり知れない長い歴史が私たちを救うためにかけられたということを表わしています。それだけのご苦労をかけた事になります。その中のお一人「法慧」という仏さまのお名前をいただきました。法は道理、教えなどを意味し、慧は智慧からきています。ものの道理に明るい仏さまです。道理は法則でもありません。

時として世の中にはきびしい現実もありますが、それも例外なく法則にのっついていきます。どうぞ「五十三仏」のひとつ「法慧」とともに智慧の教えをもって世の中を照らしてください。

法名

釋

尼響流

こうる

近藤 量子さま

『佛説無量寿経・上巻』 『眞宗聖典』十

ページ）の中にある言葉

しょうがくだいおん

こうるじつほう

正覚大音 響流十方」

正覚の大音、響き十方に流る。）からとりました。

阿弥陀仏がまだ修行中だった時のことです。その時の名前を法蔵菩薩といいました。師匠の世自在王仏のもとで本願を起し、修行をされるのですが、はじめて世自在王仏に会われたときにそのお姿があまりにも光り輝いてすばらしいのでその様子を讃えておられるところでした。お顔、お姿をほめ讃えた後で、そのおさとの声が十方あらゆるところまで響きわたるといふことをほめておられます。

法蔵菩薩はまことによき師に遇えたといわねばなりません。

私たちにとってもよき人にあうことは人生において何より大切なことでありましょう。

二切衆生、阿耨多羅三藐三菩提 きたりを求めようと（心）に近づく因縁のためには、善友を先とするにはしかず。」

『教行信証』 261ページ）

という經典の言葉もあります。

お念仏を申すとき、それは仏さまの
声が聞こえた時ですが、知らず覺えず私
たちの生活や言葉が仏さまの声となつて
家庭に響き流れるのです。

法名 釋 唯 樂

ゆいぎよう

谷田 吉貞さま

佛説無量寿經・下卷』〔眞宗聖典〕五
十六ページ〕の中にある言葉

ゆいぎようしやうじう むよごんしゃく

唯樂正道、無余欣戚」

ただしやうじう ねが よ ごんしゃく

唯正道を樂いて余の欣戚なし

からとりました。

ここはお浄土の菩薩方のお徳を讃えた
ところでは、菩薩たちは仏道のみを願
求めて、そのほかに何の個人的な喜び
欣も憂い戚もないという意味で
す。樂という字は仏教ではよく「ねがう」
という意味で使います。正道とは仏道の
事ですが、出家者の歩む道という事では
なく、私たちが日々生活の中で仏さまの
教えを聞きながら生きていくということ
です。

菩薩のお心には衆生が喜ぶときは共に
喜び、悩み苦しむ人々がある時はそのこ
とを憂い悲しまれます。

そのほかに自分のことだけで喜んだり、
憂い歎くことはされません。それは煩惱
であるということです。

そのようなことは菩薩だから出来ると思
いがちですが、私たち凡夫もお念仏を
申すとき、仏さまの声を聞くときに知ら
ず覺えず周りの人の喜びや憂い悲しみを
共にするところが育まれると思ひます。

法名 釋 慧 力

えりき

河合 力さま

佛説無量寿經・下卷』〔眞宗聖典〕五
十六ページ〕の中にある言葉

因力縁力 意力願力 方便力、常力善
力 定力慧力 多聞之力、施戒忍辱 精
進禪定 智慧之力、正念正觀 諸通明力、
如法調伏 諸衆生力、如是等力、一切具
足。」

因力・縁力・意力・願力・方便の力、
常力・善力・定力・慧力・多聞の力、施・
戒・忍辱・精進・禪定・智慧の力、正念・
正觀・もろもろの通・明の力、法のごと

くもろもろの衆生を調伏する力、かくの
ごときらの力、一切具足せり。〕
からとりました。

ここはお浄土の菩薩方が備えている
様々な力をあげているところでは、

たとえば因力は、過去世の宿因の力で
あり、縁力とは、善知識の力、意力は心
に考える力、願力は仏になろうと菩提心
を願う力などです。また常力は常に怠ら
ず修行する力、多聞力とは多くの教えを
聞いて精進する力をいいます。

その中で、智慧の力である慧力をとつ
て法名にさせていただきましました。智慧は
いうまでもなくさとりを得られた仏さ
まが身につけるふたつの徳、慈悲と智慧
のうちのひとつです。智慧は世の道理に
明るく、無明 煩惱のおおもと)によつ
て苦しんでいる私たち衆生に対して目
覚めよとはたらきかける能力です。それ
はどこまでも深く願われるのですから、
私たちの煩惱のところまで来て教え導
いてくださいます。つまり、煩惱・業を
もつ身であること知らされたところが智
慧にあつたことになります。どうぞその
ようなはたらきに遇われると同時に他
へもはたらく人となつていただきたい
です。

【帰敬式を受式して】

齊藤和恵

三年前に両親を相次いで亡くしました時に、御住職様から真宗は戒名ではなく法名をつけますと教えて頂きました。

幼少の頃、信心深かった父に手を引かれ、瑞蓮寺さん東寺に遊びに行くかのようになり、お参りに連れてってもらったことが、なつかしく思い出されます。

この度、法名を頂こうと思ったのも両親が私に仏様とのつながりを自然と身につけさせてくれたお陰だと感謝しております。

何かあった時、あとに残した家族に少しでも迷惑かけないように。元気でいるうち自分に出来ることは、なんでもしておこうと思ったのも正直な気持ちです。

報恩講・帰敬式にと姉妹揃って臨めたことが何よりの幸せです。

これから一日一日を大切に、この世に生を受けた意義と使命が何なのか。自分に問いかけてながら日々の生活に根ざして行きたいと思います。

法名を授かり有難うございました。

谷田 吉貞

推進員講座を受けるに当たり帰敬式を終えている事が条件となっており、今回の報恩講で受けられなければ本山にて自動的に割り振られた「法名」を頂く事になるので何としても今回の瑞蓮寺の報恩講で受式しご住職に付けて頂こうとお願いしました。

正式にお釈迦様の仏弟子となり弟子としての名前「法名」釋唯樂を頂き、家に帰り「法名」釋唯樂の披露した時に家内から私らしい名前が良かったねと喜ばれました。もしも私が亡くなり子供達が法名を見て思い出している所を思い浮かべてもパパは色々な事して楽しい人生を過ごしたと歓談している所が目に見えませんでした。

でも、住職からはどの經典のどの部分から唯樂と命名し、その意味はと説明を受け文書でも頂きましたが、やはり漢字の見たままで判断されるようで・・・。今回、帰敬式を受けさせていただき有難う御座いました。

【お磨きのお知らせ】

今年最後の仏具のお磨きをします。一年間を振り返って自分自身を見直しながら、仏様のご恩に感謝する気持ちで行いたいと思います。

皆様ふるって御参加下さい。

十二月二十日（木）午前九時より

【編集後記】

師走となりましたが如何お過ごしでしょうか。

特に今年は、瑞蓮寺の御遠忌、門徒会研修旅行、門徒会三十周年、推進員養成講座と例年に無い多くの行事が有り、アツと言う間の一年でした。

私も昨年の報恩講で帰敬式を受式して仏弟子となり、今までとは違った見方、考え方で、真宗と接してまいりました。その中で多数の方々とのご縁が有り、充実した一年でもあったと思います。

来年も充実した年となり、多くのご縁と仏恩に出会えますように、また、皆様のご健康を願います。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>